

令和2年度 中学生チャレンジテスト（第3学年社会）解説資料

1 (1) (2)

[問題の概要]

(1) 適切な地図を使用して、東京からの距離と方位を正しく読み取ることができるかをみる問題である。

(2) 面積が正しい世界地図の利用方法について考察できるかをみる問題である。

[出題の趣旨]

本題では、緯線と経線が直角に交わった世界地図、中心の東京からの距離と方位が正しい世界地図、面積が正しい世界地図の3種類を示し、目的に応じて地図を活用することができるかを問うている。

(1) では、図Ⅱを使うことで東京からの距離と方位を確かめることができると判断したうえで、正距方位図法の読み方を踏まえて東京の東に位置する都市と東京からの距離が最も近い都市を読み取る。

(2) では、面積が正しいという特色を踏まえて、図Ⅲの地図をどのように活用することができるのかを考える。

[授業改善へのメッセージ]

生徒は日本を中心に描かれた経線や緯線が直交する世界地図などに影響された世界観をもっていることが多い。そこで、世界地図については、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など目的に応じた様々な地図があることを取り上げ、それらの特色に留意して読み取る学習活動を通して、適切な活用方法を身に付けさせることが大切である。

新学習指導要領で求められる情報を収集したり、読み取ったり、まとめたりする多様な技能については、資料の特性とともに収集する手段やその内容に応じてそれぞれに指導上の留意点が考えられるため、一度にそれらの技能の全てを養おうとするのではなく、生徒の習熟の様子を踏まえて着実に身に付くよう、地図をはじめとした資料を積極的に活用し、繰り返し指導する機会を設けることが大切である。また、地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野においても、地図を活用させることが大切である。

2 (5) ③

[問題の概要]

幕末の出来事の推移を考察できるかをみる問題である。

[出題の趣旨]

本題では、幕末の出来事の推移を考察し、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響が明治維新の動きを生み出したことを踏まえて、年代の古い順に並べ替える。

[授業改善へのメッセージ]

新学習指導要領でも、平成 20 年改訂の趣旨を引き継ぎ、歴史的分野の学習の中心は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえるべきものとされている。「歴史の大きな流れ」は、各時代の出来事を個別・詳細に教えさえすれば、自ずと理解できるというものではない。授業などで扱う歴史に関わる諸事象の精選を図り、項目や事項に示されたねらいを踏まえて、事象を結ぶ問いを構成していくことが大切となる。ねらいを踏まえて扱う事象を焦点化して、例えば、「それはどうなるか」、「それはどのような意味があるのか」、「諸事象の関係から見いだせる時代の特色は何か」、「この時代とその前の時代とを比較して、どのような変化や継続を見いだせるか」といった、深い理解への段階を意識した課題(問い)を設定し、生徒が各時代の特色と歴史の大きな流れを、多面的・多角的に考察し、表現することができるように、授業の展開過程を体系的に組み立てることが大切である。

① (4) ④ (3)

[問題の概要]

① (4) 資料をもとに、緯度と昼の時間の長さに関連付けて考察し、適切に説明することができるかをみる問題である。

④ (3) ②資料から読み取れる情報をもとに、京都市がおこなった整備の目的について考察し、説明することができるかをみる問題である。

[出題の趣旨]

① (4) では、1 日中太陽が沈まない北極圏と比較して東京の日の出、日の入り時刻をみることで、夏至のころ北半球では高緯度ほど日の出ている時間が長いことを推測する。そのうえで、ロサンゼルスと比較して緯度が高いモスクワの方が日の出ている時間が長いと判断し X を選択する。そして、X がモスクワであると判断した理由について、モスクワの緯度がロサンゼルスに比べて高いこと、緯度が高い都市ほど夏は昼の時間が長いことを記述する。

④ (3) ②では、八坂通と産寧坂の環境整備前と後の写真から 2 か所に共通する変化を捉え、京都では歴史的景観を守るために様々な取組を行っているという既習の知識を踏まえて、環境整備の内容と目的を記述する。

[授業改善へのメッセージ]

新学習指導要領においては、社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的な事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視することとされている。平成 20 年改訂の学習指導要領において、教科等、学校種を超えて学習の基盤と位置付けられた言語能力とその育成のための言語活動の充実が求められてきた趣旨を引き継ぎつつ、資料等を有効に活用して論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの社会科ならではの言語活動に関わる学習を一層重視する必要がある。